

## 2. 消防施設

### 1. 消防機械

消防機械は、消防力の強化のため年々向上されているが、整備数を10年前と比較すると、消防ポンプ自動車（水槽付を含む）は0.99倍、救急自動車は1.11倍、はしご付消防車は0.98倍となっており、救急自動車の伸び率が高くなっている。

はしご付消防車は、屈折はしご車が5台、はしご付消防ポンプ自動車（ポンプ付でない車両を含む）が59台であり、計64台となっているが、建物の高層化により30m級以上のものが約9割を占めている。

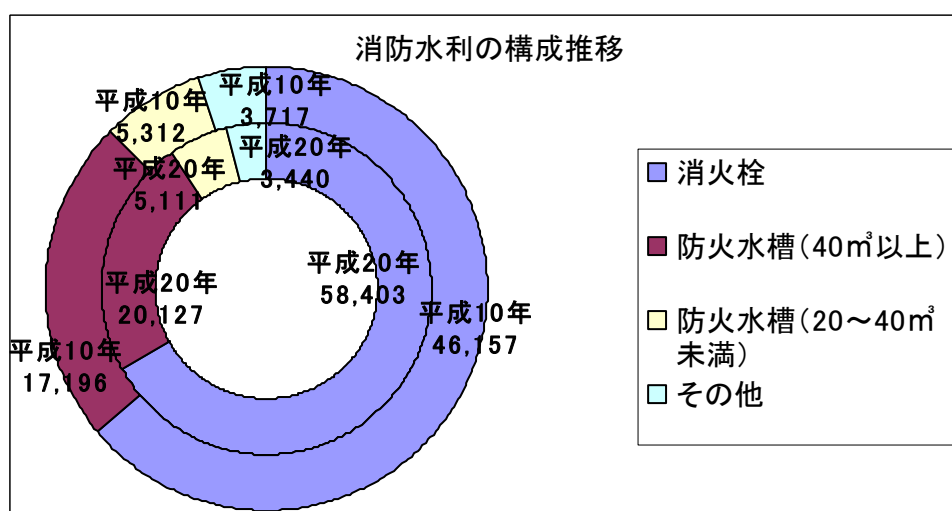
救助工作車は50台あり、10年前の48台と比べると1.04倍の伸びである。

### 2. 消防水利

消防水利は火災鎮火のため不可欠のものであり、消火栓、防火水槽及び河川等がある。

宅地開発と水道の普及が影響して消火栓の伸びが大きいが、今後懸念される大地震や大火に備えて防火水槽の増加を一層図っていく必要がある。

消防水利名	平成20年4月(a)	平成19年4月(b)	(a)-(b)	(a)/(b)×100%
消火栓	58,403	54,740	3,663	106.7
防火水槽	40 m <sup>3</sup> 以上	19,820	307	101.5
	20 m <sup>3</sup> ～40 m <sup>3</sup> 未満	5,111	5,071	100.8
井戸	536	524	12	102.3
その他（自然水利等）	2,904	2,674	230	108.6



10年前と比較してみると、消火栓は12,246（1.27倍）の伸びであり、40 m<sup>3</sup>以上の防火水槽は2,931（1.17倍）の増加であり、また20～40 m<sup>3</sup>の防火水槽は201（0.96倍）の減少である。